



博物館だより

第70号



元町2丁目・六塚稲荷神社本殿の基壇むつつか〔江戸後期〕

川越に残る近世・近代の石積とその変遷いしづみ

はじめに

市内には、近世から近代にかけての古い石積が今も残されているところがあります。

これらの中には、手間のかかるのみ切りや、はつり仕上げを施し、それぞれ形や色の違う石を巧みに組み合わせて積まれたものもみられます。そのような職人技が詰まった石積には、現在のように機械で加工されたものにはない味わいが感じられます。

今回は、そんな市内の古い石積を紹介しながら、その変遷について考えてみたいと思います。

1 石積について

石積とは、石材を複数段積み上げた構築物のことです。城の石垣、寺社や住宅の基礎・基壇・石塀、記念碑や供養塔の基礎、石橋、その他土木構造物に見られる石壁・擁壁ようへきなどがあります。

本稿では、主に石材加工に機械が本格的に導入される以前の昭和初期頃までのものを取り上げます。

石積の分類については、石積自体が城の石垣の発展に負うところが大きいことから、石垣の分類と名称に従うこととします(表1)。

現在、町なかに残る石積の多くは、切石によって隙間きりこみはぎぬのづみなく整然と積まれ、横目地の通ったもの(切込接布積)です(表2)。

2 市内における石積の変遷

石積は、時代により石の積み方や表面加工(仕上げ)の方法、石材などに違いがあります。これらは、各時代の職人の技術、当時の流行や好み、また石材産出地の変化などが背景にあります。市内の例をとっても、江戸、明治、大正期以降で違いが認められます。

以下では、そのような違いに注目して時代の特徴を考えます。

使用石材	自然石	割石(粗加工石)	切石
加工程度	野面積(のづらづみ)	打込接(うちこみはぎ)	切込接(きりこみはぎ)
布積	野面布積	打込接布積	切込接布積
乱積	野面乱積	打込接乱積	切込接乱積

表1 石垣の分類

(1) 積み方 石積には、横方向の目地が通る布積と目地の通らない乱積に大きく分けられ、この他には六角形の石材を積んだ亀甲積や石の対角線を縦に積む谷積などがあります。市内の石積については、同じ切込接布積といってもおおむね江戸期と明治以降とは異なります。

前者では多角形の石材を組み合わせせて積まれたもの（一部亀甲積に似る）が多く、そのため横目地は直線的に通ってはいません（図1-①）。

一方後者は、きれいに整えられた四角形の石材を整然と積むため、横目地が直線的になります（図1-②）。

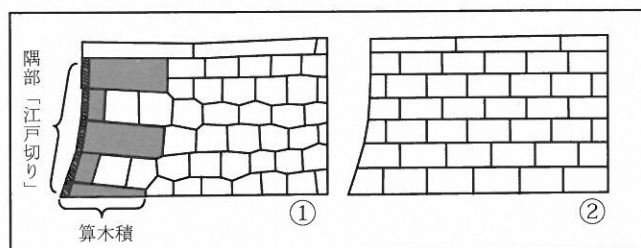


図1 切込接布積の2種（模式図）

前者の例は、仲町・烏山稻荷神社玉垣（写真6）など江戸期の石積によくみられます。後者は、市内では明治後期以降の石積に多くみられるようになります。

よって、江戸期を中心とする①から明治以後の②への大きな変化を追うことができ、さらに大正期以降になると②への完全な変化が確認できます。このような変化は近代化を表すものと思われ、直接的には明治期の近代建築建設による影響が考えられます。

この他、市内には、算木積の見られる石積があります。算木積とは、隅部に細長い石を用い、長辺と短辺を交互に積む技法で（図1-①左側）、江戸初期には完成し、城の石垣で発展したものです。南大塚・菅原神社玉垣（写真8）など幕末期を中心とする複数の神社で確認でき、いずれも社殿を囲む範囲を基壇状の玉垣が廻っています。これらは、正面や隅部に硬質の安山岩が、側面や背面には小形の凝灰岩が主体的に使われる傾向があります。また、この時期には相対的に石材自体が小さくなります。なお、砂新田・春日神社社殿基壇（写真11）や下新河岸・日枝神社社殿基壇（写真12）は、他に比べて側面の積み方が直線に近い布積となっているため、時期差が考えられますが年号が刻まれていないため明確ではありません。

(2) 表面加工（仕上げ） 切石石材の表面加工の違いにより、主に3種類が認められます（図2）。

A：直線的で平滑なもの、B：縁辺部を欠き取り中央を高く彫り残すもの（「江戸切り」※1）、C：縁辺部を丸くするものです（写真1）。Aは、目地を目立

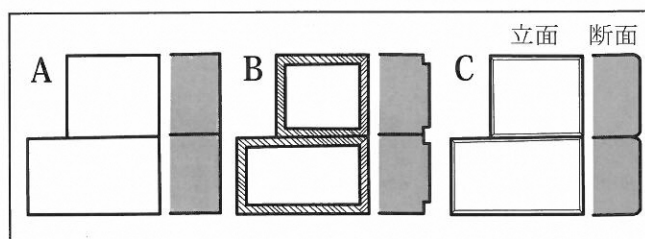


図2 石材表面加工（仕上げ）による分類

たせないもの（眠り目地）で、B・Cは、逆に目地を目立たせるものです。これら3種は、技法として併存するため、加工の違いにより単純に新旧や時期を判断することはできません。

ただ、Bの「江戸切り」については、特徴的な加工であり、一定期間における発展と流行がみられます。

まず、隅石の稜線のみを加工するものが江戸城石垣で明暦大火以後の17世紀中頃からみられ、その後、17世紀後半の元禄年間頃から江戸期を通じて周縁部を加工するものが認められます。今後の研究が必要ですが、関東各地における石積の事例から、総じて江戸に近く、舟運等による物資輸送で経済的に結びつきの強い城下町や宿場町等の寺社に多い傾向が窺えます。

市内では、小仙波町・日枝神社本殿基壇（写真4）の隅石に既に認められます。周縁部を全て加工するものでは、文政期の元町2丁目・六塚稻荷神社本殿基壇（表紙写真）が最も古く、ほかは幕末期に集中しています。

Cは、江戸期の石積に既に認められますが、市内では明治後期頃から大正・昭和初期にかけて寺院の鐘楼基壇や記念碑等の基礎、石塀に特に採用されるようになります。

横長の長方形石材によって築かれることが特徴的で、宮下町・氷川神社玉垣（写真13）や喜多町・広済寺鐘楼基壇（写真15）はその代表です。



写真1 表面加工C

(3) 石材 安山岩と凝灰岩が多く、一部に花崗岩が使われています。これらの石材は、川越周辺で産出されたものではなく、江戸から明治期には主に新河岸川舟運によって遠方から運ばれていたことが、江戸（東京）からの上り荷物の品目からわかります。

石材種や産地など詳しいことは記録に残されていませんが、当時の物流状況から考えて、江戸（東京）と同様に伊豆石が主体的に使われていたと推定されます。

市内の石積を時期別に見ていくと、江戸前期では、硬質の安山岩が主体的で、それを補うように凝灰岩も使用されています。この時期のものは、小仙波町・

仙波東照宮本殿基壇や瑞垣（写真3）、喜多院慈眼堂基壇などがあります。江戸後期になると凝灰岩が主体的となり、幕末期には特に火山礫を多く含む凝灰岩の使用が目立つようになります。市内では、氷川



写真2 火山礫を含む凝灰岩

神社拝殿基壇をはじめ比較的多くみられます（写真2）。

そして、明治後期になると、仲町・山崎家袖蔵石塀（写真14）など白色系の花崗岩が石塀に使用されるようになります。花崗岩の使用は、既に江戸期より鳥居などにみられますが、この時期に増えることが石燈籠でも確認できます。

今後検討が必要ですが、稲田石や真壁石を始め、国内のいくつかの産出地の可能性があります。

続いて大正初期には、関東において大谷石の本格的な利用が開始され、石積の石材も大谷石に大きく変化します。これは、明治後期に石材輸送のための鉄道が開通し、大正期以降に本格的に鉄道による輸送が開始されたことが大きい要因と考えられます。

大谷石製で年代が明確なものは、元町2丁目・高沢橋下擁壁（大正2年・写真17）があります。橋の下であまり目立ちませんが、横長長方形の大形石材により高く積まれています。他に大谷石製では、松平大

和守家廟所石塀などが同時代のものと考えられます。

また、大正期以降は、大谷石以外の石材も使われ、例えば小仙波町・仙波東照宮玉垣（昭和8年・写真18）には福島南部産出の凝灰岩である白河石が使われています。

以上のことから、市内における石積使用石材は、大要として江戸・明治期の伊豆石（安山岩・凝灰岩）主体から大正・昭和初期の大谷石の本格的利用へ変遷したと考えることができます。

おわりに

今回は、地味な存在である石積に注目してみましたが、時代によって石の積み方・表面加工・石材が変化することがわかりました。そして、その変化については、新河岸川舟運の変遷や近代化といった川越の歴史を反映しているものと考えられます。

そういった意味において石積はひとつの歴史資料と言え、また町の歴史的な景観を構成するものとして今後も残していきたいものです。

（文化財保護課 山田雄正）

※1 「江戸切り」とは、「石材面の縁を所定の幅で欠き取って中央を高くし、その表面を鑿切り、またはこぶ出し仕上げしたもの。」『大辞林 第3版』とある。目地を目立たせる装飾的な技法であり、文化・文政期には、のみ切り加工の精緻なものが認められる。隅石の稜線のみと周縁部すべてをのみ切りするものの2種がある。

時代	構築年代	所在	写真	石積の分類	石材	加工 その他
江戸前期	寛永17年（1640）	仙波東照宮本殿基壇（小仙波町1）	3	切込接布積	安山岩	目地漆喰の跡
	正保2年（1645）	喜多院慈眼堂基壇（小仙波町1）	4	切込接布積	安山岩＋凝灰岩	
	明暦2年（1656）以降か	三芳野神社社殿基壇（郭町2）	5	切込接布積	安山岩＋凝灰岩	
	17世紀半ば以降か	日枝神社本殿基壇（小仙波町1）	4	切込接布積	安山岩	隅部「江戸切り」
江戸後期（幕末含む）	江戸後期（本殿棟札文政2年）	六塚稲荷神社本殿基壇（元町2）	表紙	切込接布積	安山岩＋凝灰岩	周縁「江戸切り」
	江戸後期	松平大和守家廟所基壇（喜多院）	5	切込接布積	安山岩	周縁「江戸切り」
	文久元年（1861）	鳥山稲荷神社玉垣（仲町）	6	切込接布積＋隅部算木積	安山岩＋凝灰岩	周縁「江戸切り」
	幕末頃（嘉永6年）か	六塚稲荷神社玉垣（元町2）	7	切込接布積＋隅部算木積	安山岩	周縁「江戸切り」
	幕末頃	菅原神社玉垣（南大塚）	8	切込接布積＋隅部算木積	安山岩＋凝灰岩	隅部「江戸切り」
	幕末頃	喜多院番所基壇（小仙波町1）	9	切込接布積	安山岩＋凝灰岩	
	天保3年起工（明治3年上棟）	氷川神社本殿基壇（宮下町）	10	切込接布積	安山岩	極めて丁寧な、はつり仕上げ
	幕末以降か	春日神社社殿基壇（砂新田）	11	切込接布積＋隅部算木積	安山岩＋凝灰岩	隅部「江戸切り」
	幕末以降か	日枝神社社殿基壇（下新河岸）	12	切込接布積＋隅部算木積	安山岩＋凝灰岩	隅部「江戸切り」
明治後期	明治33年起工同35年落成	氷川神社玉垣（宮下町）	13	切込接布積	安山岩	
	明治後期（明治33年か）	山崎家（お茶亀屋）袖蔵石塀（仲町）	14	切込接布積	花崗岩	
	明治後期以降か	広済寺鐘楼基壇（喜多町）	15	切込接布積	安山岩＋凝灰岩	
	明治43年以前	六塚稲荷神社側面玉垣（元町2）	16	切込接布積	不明	
大正～昭和初期	大正初期か	埼玉りそな銀行東側石塀（幸町）	17	切込接布積	花崗岩	
	大正3年	六塚稲荷神社背面玉垣（元町2）	18	切込接布積	不明	
	大正2年	高沢橋下擁壁（元町2）	17	切込接布積	大谷石（凝灰岩）	
	昭和8年	仙波東照宮玉垣（小仙波町1）	18	切込接布積	白河石（凝灰岩）	

表2 市内における主な石積一覧



写真3 小仙波町・仙波東照宮本殿瑞垣



写真4 小仙波町・日枝神社本殿基壇



写真5 喜多院・松平大和守家廟所基壇



写真6 仲町・烏山稲荷神社側面玉垣



写真7 元町2・六塚稲荷神社正面玉垣



写真8 南大塚・菅原神社正面玉垣



写真9 小仙波町・喜多院番所基壇



写真10 宮下町・氷川神社本殿基壇



写真 11 砂新田・春日神社社殿基壇



写真 12 下新河岸・日枝神社社殿基壇



写真 13 宮下町・氷川神社玉垣



写真 14 仲町・山崎家（お茶亀）袖蔵石塀



写真 15 喜多町・広済寺鐘楼基壇



写真 16 元町 2・六塚稻荷神社側面玉垣

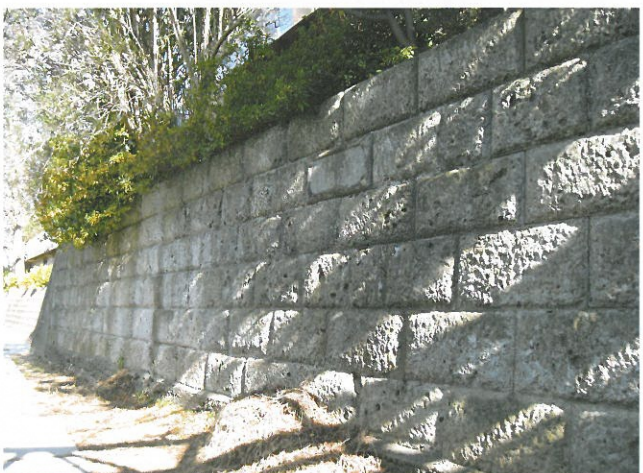


写真 17 元町 2・高沢橋下擁壁



写真 18 小仙波町・仙波東照宮玉垣

第23回収蔵品展

情報伝達の道具—伝える・広める—を終えて

第23回収蔵品展は、7月20日から9月8日まで開催し、多くの方々にご来館をいただきました。紙面をお借りし、お礼申し上げます。

今回の収蔵品展では、「情報伝達の道具」と題して、展示を行いました。一言に「情報」といいますが、そこには1対1のやりとりもあれば、必要とされる人たちへ伝えるもの、さらには不特定多数の人々に広めるものと、実に様々な「情報」があることに気づかされました。展示資料を通して、わたしたちの暮らしと情報との結びつきや暮らしの移り変わりに思いをはせていただけたことと存じます。

川越郵便局の移転について

今回の展示に際し、川越における郵便事業について調査する中で、川越郵便局は、開設から現在ある三久保町に至るまで、その場所を数回に渡り移転していることがわかりました。ここでは、川越の郵便局の移転についてまとめてみます。

明治5年(1872)7月に駅通制の改革が行われ、駅巡察官吏の所轄する郵便取扱所を設置することになりました。しかし、全国に郵便取扱所を設けるには膨大な費用が必要で、創業間もない郵便事業にとっては難しいことでした。そこで駅通頭の前島密は、地方の名主や資産家を郵便取扱人に任命する方法をとりました。

これにより郵便取扱役の自宅を郵便取扱所としました。取扱所には僅少の手当が支給されるだけでしたが、新しい国家づくりの一翼を担うことができるという誇りになりました。こうした国の取組を受けて、川越郵便取扱所が喜多町の水村家に開設されました。その後電信業務の開始に伴い、明治21年(1888)江戸町993(大手町)に移転しました。明治26年(1893)3月17日の川越大火で川越郵便電信局は類焼しましたが、すぐに志義町1633の横田家の家屋を借用し局舎としました。明治37年(1904)4月には志義町1585(現騎西屋)に移り、翌年特定三等郵便局となり、ここに初めて官吏による局長が任命されました。特設電話交換事務開設に伴い、明治43年(1910)6月、志義町1624(黒須家・現亀屋駐車場)に局舎を新築しました。昭和4年(1929)には、志義町1629(現NTT)に新築移転し、昭和43年(1968)、郵便業務については現在の三久保町に移転し現在に至っています。このように、川越大火や郵便電信業務の拡大等時代の変化に伴い、川越の郵便局はその場を移転し、発展していることがわかりました。詳しくは、明治45年川越市街全図をもとに移転場所を示しましたのでご参照ください。このような郵便局の移転場所を巡ることで、また違った角度から川越の歴史を知るよい機会となるでしょう。



「川越市街全図(明治45年)」(個人蔵、当館寄託) 部分

開始時期	川越の郵便局			
	郵便局名称	場所	局長等	業務等
明治5年7月1日	川越郵便取扱所	①喜多町 (水村家)	郵便取扱人 水村与右衛門	
明治6年4月	二等郵便役所		郵便取扱役 水村 精	
明治7年5月			五等郵便取扱役 水村 精	為替業務取扱開始 郵便貯金業務開始
明治8年1月1日	三等郵便取扱役 水村 精			三等郵便取扱役 水村 精
明治12年2月				
明治15年11月10日				
明治18年4月	三等郵便局			
明治19年3月				
明治21年12月	川越二等電信局・三等郵便局 (川越郵便電信局と呼ばれた)	②江戸町993	局長 新莊官五	
明治23年5月	川越三等郵便電信局	③志義町1633 (横田家)	郵便電信局長 横田準之助	欧文電報取扱開始
明治26年			局長 黒須博吉	
明治31年8月				
明治36年4月	川越三等郵便局	④志義町1585 (現騎西屋)	局長 松下定雄	電話所開設
明治37年3月5日				
明治37年4月				
明治38年	特定三等郵便局	⑤志義町1624 (黒須家・現亀屋 駐車場)		特設電話交換 事務開始
明治41年				
明治43年6月				
昭和4年	川越郵便局 (普通郵便局)	⑥志義町1629 (現NTT)		
昭和16年				
昭和24年				
昭和43年11月				
				⑦三久保町13

(学芸担当 須田浩司)

参考文献

「川越商工会議所75年誌」川越商工会議所(昭和53年)

Information

平成25年度の博物館行事です。(3月まで)

展示会・講座・教室 etc.

●…一般向け事業 開催日 講座名
○…子ども向け事業 内容 申込開始日

1月		18日(土)～ 第24回「むかしの勉強・むかしの遊び」展	○11(土) 子ども体験教室 まゆ玉飾りを作ろう 1/5	○25(土) 子ども体験教室 土鈴・土笛作り 1/7
2月		第24回「むかしの勉強・むかしの遊び」展	○15(土) 子ども体験教室 昔の道具を使ってみよう 申込不要	○22(土) 子ども体験教室 昔の道具を使ってみよう 申込不要
			●1(土) 縄文土器作り教室 1/9	●9・16・23(日) 博物館歴史講座 川越の弥生時代 1/8
3月		～2日(日) 第24回「むかしの勉強・むかしの遊び」展 29日(土)～ 第40回企画展「絵図から見た川越」(仮題)	○1(土) 子ども博物館教室 昔の織物に挑戦 2/4	○8(土) 子ども体験教室 和紙作りに挑戦 3/1
			○15(土) 子ども体験教室 わら細工に挑戦 3/2	●2・9・16(日) 博物館歴史講座 はじめての「遠野物語—神の座・人の座—」 2/5

※変更の可能性もあります。申込方法も含め、詳細については「広報川越」またはホームページを御覧ください。
お問い合わせは博物館まで。

入館者300万人達成

川越市立博物館は、平成2年3月の開館以来、多くの皆様のご利用をいただき、平成25年7月18日、300万人目のお客様を迎えることができました。

記念すべき300万人の入館者は、札幌にお住まいの中山弘子さんです。当日は、当館ロビーにて入館証明書の授与と記念品の贈呈を行いました。「300万人目と聞いてとてもびっくりしました。記念の時に来ることができとてもうれしいです」と中山さん。

また、入館300万人達成を記念し、ポイントカードを発行しています。平成25年7月20日から平成26年2

とができるものです。但し、スタンプは有料入館時のみ対象で、カード1枚につき1名の利用になります。

これからも、来館者の皆様に親しまれる博物館を目指し、職員一同努力して参りますので、よろしくお願いいたします。

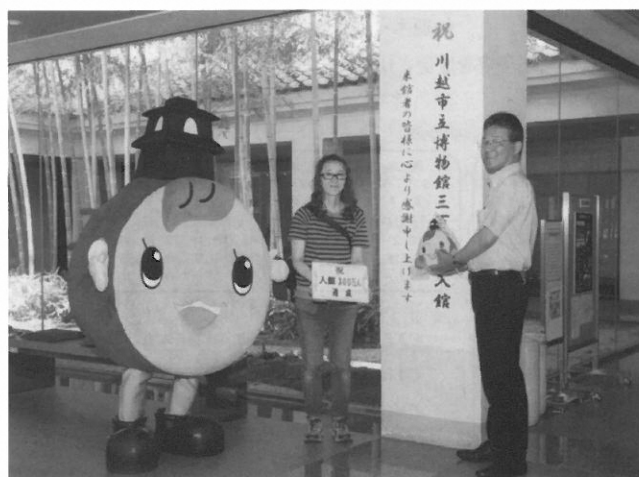
Kawagoe City Museum
川越市立博物館入館300万人達成！

Point Card

1回の入館につきスタンプ1つ。
スタンプ4つで、1回入館無料。
但し、スタンプは有料入館時のみ対象。
【キャンペーン期間】
H25.7.20 から H26.2.28 まで



2月28日の期間に、スタンプを4つ集めると、平成26年12月21日までの間で、1回無料入館するこ



第24回 むかしの勉強・むかしの遊び展

平成26年1月18日(土)～3月2日(日)

毎年恒例の「むかしの勉強・むかしの遊び」展の季節がやってきました。この展示は、当館の収蔵資料から地域の人々の暮らしの移り変わりをたどり、昭和30～40年代の教室・居間・台所や駄菓子屋の店先を再現します。

さらに今回の展示では「2020年東京オリンピック・パラリンピック開催決定」を記念して、昭和39(1964)年に開催された東京オリンピックにちなんだ資料を展示します。この展示を通して、大人が子どもに当時の思い出を語れるような場となれば幸いです。みなさまのご来館をお待ちしております。



東京オリンピックの時に発行された記念メダル

利用の御案内

◆入館料

区 分	博物館	川越城 本丸御殿	蔵造り 資料館	共通入館(観覧)券			
				博物館 ・美術館	博物館 ・本丸御殿 ・蔵造り 資料館	博物館 ・本丸御殿 ・蔵造り 資料館 ・美術館	博物館 ・本丸御殿 ・蔵造り 資料館 ・美術館 ・まつり 会館
一 般	200円 (160円)	100円 (80円)	100円 (80円)	300円	300円	450円	650円
大学生 高校生	100円 (80円)	50円 (40円)	50円 (40円)	150円	150円	220円	450円

※()内料金は、団体〔20名以上、1名につき〕の場合

◆開館時間 午前9時から午後5時まで(ただし入館は午後4時30分まで)

◆休 館 日 月曜日(休日の場合は翌日の火曜日)

第4金曜日(休日を除く)年末年始(12月28日～1月4日)

館内消毒(6月下旬)特別整理期間(12月下旬)

*開館時間・休館日は、博物館・川越城本丸御殿・川越市蔵造り資料館とも原則として同じ
(館内消毒・特別整理期間は博物館のみ休館、蔵造り資料館は1月2日から開館)

●ガイド ○博物館 平日(開館日)午前11時・午後2時 土・日・祝日 午後11時・午後1時・午後2時・午後3時

※予定を変更させていただく場合もありますので、ガイドを御希望の方は、博物館にお問い合わせください。

○川越城本丸御殿(市民ボランティア) 毎月第3日曜日午前11時・午後2時 ※事前のお申し込みはいりません。当日直接おこしください。

○川越市蔵造り資料館(市民ボランティア) 毎月第2日曜日午前11時・午後2時 ※事前のお申し込みはいりません。当日直接おこしください。

●機織り実演・体験(協力:博物館同好会)

○博物館 毎週火・水曜日 午後1時～3時 華の会(裂き織り)

毎週木・土・日曜日 午前10時～午後3時(12時～1時はお休み) 川越唐棧手織りの会

※予定を変更させていただく場合もありますので、御希望の方は、博物館にお問い合わせください。



平成25年 12月						
日	月	火	水	木	金	土
1 (2)	2	3	4	5	6	7
8 (9)	9	10	11	12	13	14
15 (16)	16	17	18	19	20	21
22 (23)	24 (25)	25 (26)	26 (27)	27 (28)	28 (29)	30 (31)

平成26年 1月						
日	月	火	水	木	金	土
1 (2)	2 (3)	3 (4)	4 (5)	5 (6)	6 (7)	7 (8)
8 (9)	9 (10)	10 (11)	11 (12)	12 (13)	13 (14)	14 (15)
15 (16)	16 (17)	17 (18)	18 (19)	19 (20)	20 (21)	21 (22)
22 (23)	23 (24)	24 (25)	25 (26)	26 (27)	27 (28)	28 (29)

平成26年 2月						
日	月	火	水	木	金	土
1 (2)	2 (3)	3 (4)	4 (5)	5 (6)	6 (7)	7 (8)
8 (9)	9 (10)	10 (11)	11 (12)	12 (13)	13 (14)	14 (15)
15 (16)	16 (17)	17 (18)	18 (19)	19 (20)	20 (21)	21 (22)
22 (23)	23 (24)	24 (25)	25 (26)	26 (27)	27 (28)	28 (29)

平成26年 3月						
日	月	火	水	木	金	土
1 (2)	2 (3)	3 (4)	4 (5)	5 (6)	6 (7)	7 (8)
8 (9)	9 (10)	10 (11)	11 (12)	12 (13)	13 (14)	14 (15)
15 (16)	16 (17)	17 (18)	18 (19)	19 (20)	20 (21)	21 (22)
22 (23)	23 (24)	24 (25)	25 (26)	26 (27)	27 (28)	28 (29)

○印は、3館休館(博物館、資料館、本丸御殿)

○印は、2館休館(博物館、本丸御殿)

○印は、1館休館(博物館)

博物館の最新情報をパソコン又は携帯電話へ配信します

メール配信を希望される方は、川越市ホームページのオンライン「メール配信サービス」から「博物館メール配信」の登録を行ってください。携帯電話では、右のQRコードから登録の手続きができます。随時最新の情報等を配信します。

※登録料および情報提供料は無料ですが、インターネット接続やメールの受信などにかかる費用は利用者の負担となります。



発行日 平成25年12月15日

発行 川越市立博物館

〒350-0053 川越市郭町2丁目30番地1 TEL049-222-5399 FAX049-222-5396

Eメール hakubutsukan@city.kawagoe.saitama.jp

ホームページ http://museum.city.kawagoe.saitama.jp/